

ライティング添削プラットフォーム「Rewrites」を用いた学校教育プログラム、 経済産業省「未来の教室」実証事業への採択が決定

－全世界のネイティブ・バイリンガルが、オンラインで動画・テキストを用いて英語ライティングを指導－

株式会社キャタル(本社:東京都渋谷区、代表取締役:三石 郷史、以下 キャタル)が提供するライティング添削プラットフォーム「Rewrites(リライツ)」(以下 Rewrites)を用いた学校教育プログラムが、経済産業省が展開する「未来の教室」実証事業へ採択されることが決定しました。

本プログラムは、武蔵野大学附属千代田高等学院(所在地:東京都千代田区)の一部のクラスで「Rewrites」を用いた英語のライティング教育を開始するものです。今後、本実証実験の結果をもとに、全国の中学校・高校に対して、ICTを用いた新しい英語教育の提供を目指してまいります。

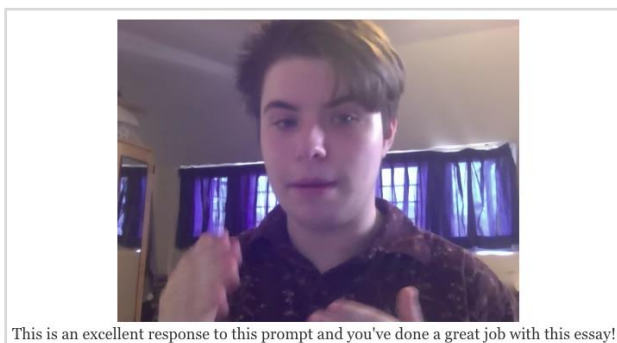
※ 「未来の教室」実証事業の詳細はこちら: <https://www.learning-innovation.go.jp/>

■Rewrites について

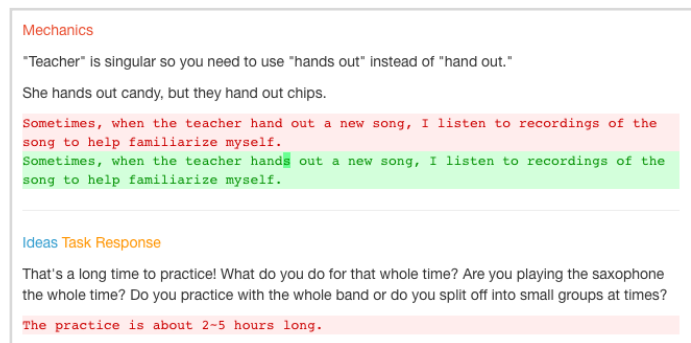
Rewrites は「書く」「フィードバック」「書き直す(リライト)」を繰り返すことで英語力の向上を目指す、ライティング添削プラットフォームです。ICTを活用したサービスを提供することで、世界の名門大学出身者やバイリンガルなど、英語の高いライティング力を持つ教師から、丁寧な指導を受けることができます。

生徒が Rewrites に物語のサマリーやエッセイなどの文章を入力し提出すると、1週間程度でフィードバックが届きます。フィードバックは、動画によるメッセージと、文法の指摘やネイティブらしい言い回しのアドバイスなどを一文ずつ細やかにコメントしたテキストの2種類で行われます。内容をもとに書き直したものを送付すると、再度フィードバックを受け取ることができます。このサイクルを繰り返すことで、高いライティング能力の習得を目指していきます。

<Rewrite のフィードバック画面(イメージ)>



動画によるメッセージ



一文ごとにコメントしたテキスト

■教育現場が抱える課題

現行のセンター試験に代わって 2020 年度から「大学入学共通テスト」が導入されるほか、学習指導要領にも大幅な改定が見込まれるなど、教育現場は大きな変化に直面しています。特に、英語では従来の「読む・聞く」の 2 技能に加え「書く・話す」が重視された 4 技能が求められることが注目を集めています。

中でも「書く」力の育成には、丁寧で質の高い添削やフィードバックなど時間をかけた教育が必要です。しかし、既に教師の長時間労働が問題視されるなか、長文を添削する時間を捻出することが難しいという教師側の課題があります。こうした中で、これまでの授業方法とは異なる手法の創出が求められています。

■株式会社キャタルについて

キャタルは、次世代の英語教育を提供し、世界基準の教育を受けられる子どもたちを育てることをミッションとしています。「英語塾キャタル」では、ABCからTOEFL100点まで世界一生徒の英語力が伸びる塾を目指し、バイリンガルの教師のもと、ストーリーブックの読書を基本とした独自の学習を行うことで、自律的に学ぶ子どもを育てます。さらに、ライティング添削プラットフォーム「Rewrites」の提供を通じて、居住エリアに囚われず、高い英語教育を受けられる環境づくりを目指しています。

■会社概要

会社名： 株式会社キャタル
設立： 2002年2月
代表取締役： 三石 郷史
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-19-21 BCG 神宮前 PROPERTY 8F
事業内容 ・子ども・学生向け英語塾「英語塾キャタル」運営
・ライティング添削プラットフォーム「Rewrites」運営

【お客様からのお問い合わせ先】

株式会社キャタル

TEL: 03-4520-4236 受付時間 9:00~21:00

【本件に関する報道関係の皆さまからのお問い合わせ先】

ビルコム株式会社 「キャタル」PR 事務局 阿部/吉武

TEL: 03-5413-2411 FAX:03-5413-2412 MAIL: catal@bil.jp